

平成 19 年 11 月 7 日

各 位

埼玉県川口市飯塚一丁目 18 番 8 号
株式会社 アドミラルシステム
代表取締役会長兼社長 丸山 治昭
(コード番号: 2351 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役 青木 邦哲
(Tel:048-259-5111)

平成 20 年 3 月期 中間決算ダイジェスト

Topics

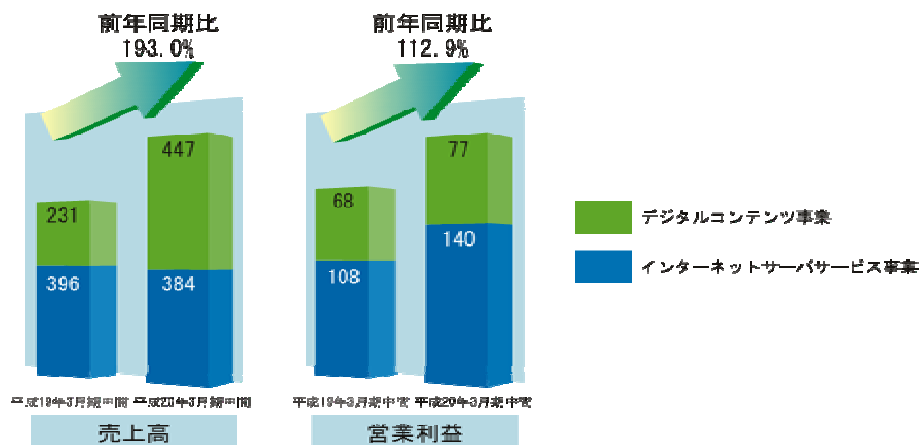
中間期過去最高の売上高を達成 (売上高 831 百万円、前年同期比 132.5%)
中間期過去最高の経常利益を達成 (経常利益 212 百万円、前年同期比 120.4%)
インターネット通信販売を展開する株式会社ネオスを連結子会社化
子会社の増加及び既存サービス好調により、デジタルコンテンツ事業急拡大 (売上高 447 百万円 (前年同期比 193.0%)、営業利益 77 百万円 (前年同期比 112.9%))

【中間業績概要】

当中間連結会計期間 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日) における連結売上高は、過去最高の売上高となる 831 百万円 (前年同期比 132.5%) となりました。

売上高が増加した要因としましては、平成 19 年 4 月に連結子会社化したインターネット通信販売事業を展開する株式会社ネオスが、モバイルを中心としたマーケティング活動を積極的に行った結果、業績に大きく貢献いたしました。

また、従来より提供しております、オンラインベースボールゲーム「ドリームベースボール」、ウェブコンテンツの企画開発及びインターネットグループウェアサービス「HotBiz」等においても順調に推移した結果、デジタルコンテンツ事業における売上高は、前年同期比 193.0% の 447 百万円と大幅な増収となりました。



利益面につきましては、売上高が順調に増加した結果、連結営業利益及び連結経常利益はそれぞれ 224 百万円（前年同期比 126.8%）、212 百万円（前年同期比 120.4%）となり、連結中間純利益につきましては、118 百万円（前年同期比 103.2%）と過去最高の業績を達成いたしました。

【通期見通し】

中間期における連結及び単体の業績見通しに対する達成度は以下のとおりであります。

【連結】	平成20年3月期中間実績	平成20年3月期中間予想	予算達成率
売上高	831百万円	780百万円	106.5%
営業利益	224百万円	175百万円	128.0%
経常利益	212百万円	185百万円	114.6%
当期（中間）純利益	118百万円	100百万円	118.0%

【個別】	平成20年3月期中間実績	平成20年3月期中間予想	予算達成率
売上高	501百万円	485百万円	103.3%
営業利益	162百万円	135百万円	120.0%
経常利益	151百万円	140百万円	107.9%
当期（中間）純利益	82百万円	75百万円	109.3%

上記のとおり、業績は順調に推移しておりますが、当社が属している業界が変動著しいインターネット業界であることから、平成19年5月11日に公表いたしました、通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の業績予想（連結・個別）につきましては、据え置かせて頂きます。

参考：平成20年3月期通期業績予想（連結・単体）

	売上高	経常利益	当期純利益
連 結	1,560 百万円（129.0%）	380 百万円（111.8%）	210 百万円（100.5%）
単 体	1,010 百万円（111.0%）	330 百万円（129.9%）	180 百万円（130.4%）

（注）本業績予想は、現在入手可能な情報から、当社の経営者の判断に基づき作成しております。したがって、実際の業績は様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることもご承知おきください。

また、公表された直近の予想値に対し、売上高が10%、営業利益、経常利益もしくは当期純利益が30%以上乖離した修正予想値が算出された場合には、業績予想の修正を公表することといたします。

当社グループでは、下半期に向けて、インターネットサーバサービス事業におきましては、デジタルコンテンツ事業拡大に伴って必要となるサーバ開発及びアプリケーション開発を行っていくとともに、本日よりインターネット予約管理システム「eリザーブ」の新バージョンを開始する等、現在企画開発中のアプリケーションを順次提供していくことにより、顧客の獲得を目指してまいります。

また、デジタルコンテンツ事業におきましては、インターネット通信販売業における対応商品の拡大及び既存サービスの充実によって、積極的に事業を拡大してまいります。

また、当社グループが属するインターネット産業は新興産業の一つであり、環境の変化が著しい状況にあります。そのため、同産業の中で企業規模を拡大していくためには、成長性のある企業との業務提携や資本提携、もしくは同業他社又は事業的相乗効果の見込める企業との M&A を検討していくことが必要であると判断しております。

下期におきましても、グループ相互間の連携を強めていくとともに、さらなる業容の拡大および新規事業の参入を目的として、M & A を中心とした資本提携および業務提携を積極的に検討してまいり所存であります。

当期における 1 株当たり配当額につきましては、600 円を予定しておりますが、当社グループの方針として、配当性向 20%~30%を一応の目安とし、1 株当たり当期純利益の増加に伴って、1 株当たり配当額につきましても継続的な向上に努めていく方針であります。

なお、本日発表の業績予想には既に開示した企業以外の M & A による業績の変動は見込んでおりません。

なお、詳細につきましては、当社ウェブサイト (<http://www.asj.ad.jp/>) に掲載しております「平成 20 年 3 月期中間決算短信」をご参照ください。